

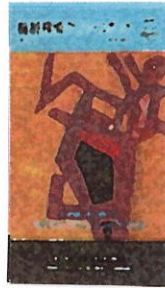


# 本日のテーマ「世界のミステリー作家」

実施日：2019年5月26日

## 1 「機械探偵クリク・ロボット」

カミ／著 高野優／訳 2010年 早川書房 【953カ】  
探偵ロボットのクリクには、ミステリー解決のための様々な機能があります。でもクリクの答えには解説が必要...



## 2 「ねじれた家」

アガサ・クリスティー／著 田村隆一／訳  
2004年 早川書房 【S933ク】

“犯人は誰なのだろう？”と思いついたら、どんな読み進めて...ラスト“エー!!”ってなりす。



## 3 「クロイドン発 12時30分」

F. W.クロフト／著 霜島義明／訳  
2019年 東京創元社 【S933ク】

主人公の心理描写が主として描かれた作品です。いつもとは違ったパターンで読みかかれます！



## 4 「日曜の午後はミステリー作家とお茶を」

ロバート・ロプレスティ／著 高山真由美／訳  
2018年 東京創元社 【S933ロ】

様々な謎が14話楽しめる連作短編集です。短編なので、好きな登場人物やら、ややこしいトリックやらに悩まされることも多く、翻訳ミステリー初心者にもおすすめです。



## 5 「嘘の木」

フランシス・ハーディング／著 児玉敦子／訳  
2017年 東京創元社 【933ハ】

嘘を養分に育った不思議な木を利用し、14歳の主人公は父の死の謎にせまります。著者は英国のファンタジー作家で、多数の賞も受賞。ファンタジー、ミステリー、王道のYAなど様々な読みかかできる読みこたえ十分な作品です。



## 6 「それゆけ、ジーヴス」

P. G. ウッドハウス／著 森村たまき／訳  
2005年 国書刊行会 【933ウ】

イギリスを代表するユーモラスにあふれた作品。執事のジーヴスが様々な事件を解決しています。短編集。他にシリーズあり。

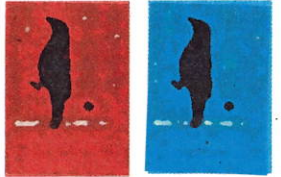


## 7 「カササギ殺人事件 上、下」

アンソニー・ホロヴィッツ／著 山田蘭／訳  
2018年 東京創元社 【S933ホ】

700が選ぶ2018年傑作ベスト1の作品。

アガサ・クリスティーが好きな人にはおすすめ！上下巻でからりとかわり味。一粒で二度美味しい!!



## 8 「このミステリーがすごい! 2019年版」

このミステリーがすごい!編集部／編 2018年  
宝島社 【901コ】 ※2013年版より所蔵。

“なんとも面白いミステリーが読みたい!”という時に役立ちます。ランキングやコメントを参考に手に取って下さい。



## 9 「泥棒は野球カードを集める」

ローレンス・ブロック／著 田口俊樹／訳 1996年  
早川書房 【933ブ】

主人公をとりまく登場人物たちのユーモア溢れるキャラクターも、事件解明の流れとともに楽しめる王手。



## 10 「元年春之祭」

陸秋槎／著 稲村文吾／訳 2018年  
早川書房 【923リ】

最近、増えている中国人作家によるミステリーです。舞台は今から2000年以上前の前漢時代の中国。ですが、中国史に詳しくなくても謎解きは充分楽しめます。ただし、推理小説をキャラクターで読むタイプの方は、この作品苦手かもしれません。

